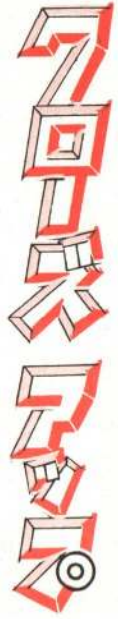


# 夢中熱中青春ライフ!



## どんぐりクラブ(卓球)

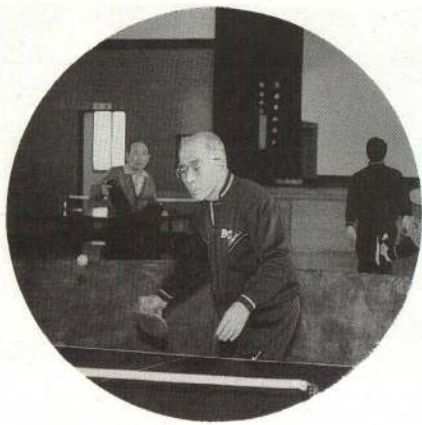
10

◆◆◆◆◆  
 シェークハンド・グリッブ、ペンホルダー・グリッブ、ごぞんじですか? 卓球のラケットの持ち方です。今回ご紹介するのは、長木公民館で卓球をやっているどんぐりクラブの皆さんです。かわいい名前ですよ。会長の小林常正さんからお話を聞いてきました。  
 ◆◆◆◆◆

### 男性は全員

### 六十歳以上

今、メンバーは二十人、そのうち女性が三人です。男性はみんな六十歳を超えています。会則で決まってるんですよ。鉱山に勤めてた人や公務員だった人などいろいろいますが、退職して



目の当たりにした打球の早いこと

ただ家でゴロゴロしてたんじやだめだということだったんです。クラブができて十年と少しですが、最初は長木地区卓球同好会という名前でした。いかにもという名前でしょう。でも銀行

なんかもトマトやらができたんだから、もう少し柔かくて気軽なのがいろいろ、腕前がどんぐりの背比べだから「どんぐりクラブ」だ、と名前を変えました。六十年のことです。そして頭文字のDとCの入ったそろいのユニホームも作ったんですよ。

もう年も年ですから、上達するといっても限界がありますけど、毎週月曜日と金曜日、九時から十二時ころまで汗を流しています。それに毎年秋田市「霜卓会」というところと交流しています。あち

ちは平均年齢六十二・六歳、こちらは六十四・五歳、うちは女性若いです。私なんか今年七十九歳ですから(笑)

### 勝敗じゃなく いい汗をかきこと

大会にも出てますよ。最近はい内町へ行ってます。技量に合わせてクラスを選べますし、リーグ戦がありますからたくさん試合ができるんです。出たからには多くやりたいですからね。

でも、勝ち負けじゃないんです。それ考えてたら長続きしませんよ。クラブではとにかくみんなが楽しめるように、いい汗かけるようにと思ってやっています。ですから二十分交替は厳守。三度の飯より卓球が好きという人ばかりですから。



皆さんお若いです。(前列左から3人目が小松さん)

## 境 発 → 大館着

### 前略

## 大館市民になりました⑩

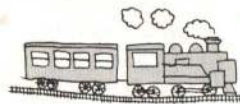
▽今回は獅子ヶ森(県営住宅)の渡辺忠昭さんご一家です。  
 Q・ご家族は何人ですか?  
 五人です。長女は釈迦内小学校の三年、長男は向陽幼稚園の年長組、二男は三歳です。

Q・どちらから転入されましたか?  
 茨城県境町からです。私は大茂内の出身で、妻は東京なんです。それで、ここに入る前、何か月かは大茂内の実家にいたんですよ。ここへ入ったのは去年の九月です。

Q・大館の印象はいかがでしたか?  
 私は大館の出身ですからこんなものかなと。妻は東京ですから、ここからは妻に話してもらいますね。「田舎だなんて思ってたんですけど。境町もそうだったけど、なんにもないな」というのが第一印象でしたね。(笑)

Q・言葉や食べ物などでとまどいはありませんか?  
 言葉はわからないですね。若い人たちと話しても、短くして言ってるせいなのか、わからなくなりました。食べ物についても、まだきりたんぼぐらいしか食べていませんから、何とも言えないです。

Q・大館にどんなことを望みますか?  
 子供の遠足で行ったんですが、秋田市の駅前みたいに大館も開けてくれたらと思います。それと獅子ヶ森はバスの便が悪くて、一時間に一本ぐらい。もう少し多くならないでしょうか。車がないと冬は出かけられませんから。あと空港が早くできるといいですね。実家が近くなる気がします。



忠昭さんと妙子さん、前列右から愛さん、誠くん、司くんです